

令和7年度

農薬管理指導士認定試験問題

(注意事項)

- 1 問題は全部で30問（12ページ）あります。
- 2 問題は全て択一式となっています。選択肢の中から正解と思うものを一つ選び、その番号を黒の鉛筆又はシャープペンシルで別紙の解答用紙に、はっきりと記入してください。
- 3 正解が二つ以上ある問題はありません。1問につき二つ以上の番号を解答用紙に記入したときには、その問題については不正解となります。
- 4 解答を訂正するときには、いったん記入した番号を消しゴムできれいに消し、上からはっきりと番号を記入するようにしてください。消し方が不十分なときは不正解となります。
- 5 試験問題の中で文字の不鮮明なところがあったときやページが欠落しているときには、静かに手を上げて係員に申し出てください。それ以外、問題の内容に関する質問にはお答えできません。
- 6 解答用紙と試験問題は別々になっていますので、解答用紙のみを提出してください。試験問題は持ち帰ることができます。

問題1 神奈川県農薬管理指導士に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 神奈川県では、農薬販売者、農薬使用者その他農薬の管理指導上必要と認める者に対して、農薬に関する研修及び試験を実施し、その合格者を農薬管理指導士として認定している。
- 2 神奈川県農薬管理指導士は、農薬使用者等に対し、農薬取締法その他農薬に関する法令の遵守、農薬の特性や病害虫及び雑草の適正な防除方法等について指導又は助言を行う。
- 3 神奈川県農薬管理指導士は、農薬取締法や農薬管理指導士の任務に違反する行為があった場合には、認定を取り消されることがある。
- 4 神奈川県農薬管理指導士の認定期間は3年間であり、自動的に更新される。

問題2 「神奈川県農薬安全使用指導指針」に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 農薬は、最終有効年月を過ぎても効果は変わらないので、廃棄せず使用するよう努めること。
- 2 農薬取締法第18条第2項に基づき定められる販売禁止農薬は、使用しないこと。
- 3 農薬散布の際は、散布面積に対し、過不足の生じない薬液量を調製するとともに、全量を使い切ること。
- 4 住宅地における農薬使用に当たっては、農薬の飛散を防止するため、国通知「住宅地等における農薬使用について」を遵守すること。

問題3 「神奈川県農薬安全使用指導指針」に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 農薬取締法に基づき指定された水質汚濁性農薬は使用しないこと。
- 2 農薬の河川や湖沼への流出により水生動物に影響が及んだり、周辺への飛散による被害が生じたりすることのないよう、地形や散布時の気象に十分配慮し、必要最小限の使用に努めること。
- 3 農薬散布が広範囲にわたる場合や土壤くん蒸剤を使用する場合は、周辺住民に対しての十分な配慮を行うこと。
- 4 毒物及び劇物取締法に基づき定められた毒物に該当する農薬は、高い効果が得られる場合には優先的に使用すること。

問題4 植物防疫に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 農林水産省は「予防・予察」に重点を置いた総合防除の確立を推進している。
- 2 病害虫防除所は、植物防疫事業の実務を行う地方機関として全国に設置されている。
- 3 みどりの食料システム戦略では、2050年までに化学農薬使用量（リスク換算）の30%低減を目指している。
- 4 病害虫防除員は、防除のために必要な侵入調査事業、発生予察事業その他防除に関する事務を行うため、設置されている。

問題5 発生予察情報の種類に関する次の記述について、正しい組合せを一つ選びなさい。

- ア 警報は、重要な病害虫が大発生することが予想され、すぐにも防除する必要が認められる場合に発表される。
- イ 特殊報は、新規の病害虫が発見されたり、あるいは、重要な病害虫の発生状況が例年と異なるなど特異的な現象が認められた場合であって、生産現場への影響が懸念される場合に発表される。
- ウ 発生予報は、病害虫の発生に関する情報を定期的に発表するもので、病害虫防除所から月1回程度発表される。

	ア	イ	ウ
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤

問題6 植物検疫に関する次の記述について、正しい組合せを一つ選びなさい。

- ア 侵入調査事業における調査は、植物防疫所が全国の海空港、中央卸売市場、生産園地などにおいて調査を実施している。
- イ 植物防疫所に配置された植物検疫官は、輸入検疫、輸出検疫、国内検疫、緊急防除などの植物検疫業務を実施している。
- ウ 輸入検疫の対象は、苗、穂木、球根、切花、種子、果実、野菜、穀類、豆類、木材、香辛料原料、漢方薬原料等の植物であり、それらの加工品は対象としない。

	ア	イ	ウ
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤

問題7 農薬取締法第二条第一項に基づき特定農薬として指定されているもののうち神奈川県内で使用できる組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 食塩、エチレン、酢酸
- 2 重曹、天敵（県内で採集されたもの）、食酢
- 3 重曹、次亜塩素酸水（塩酸又は塩化カリウム水溶液を電気分解して得られるものに限る）、酢酸
- 4 食塩、天敵（県内で採集されたもの）、食酢

問題8 農薬取締法第十八条第二項の規定に基づき、農薬の販売の禁止を定める省令により販売が禁止されている農薬として、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 ケルセン
- 2 ベンチオカーブ
- 3 ダイホルタン
- 4 ベンゾエピン

問題9 次の農薬のうち、農薬取締法第二十六条により指定された水質汚濁性農薬として、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 アルドリン
- 2 チウラム
- 3 1, 3-ジクロロプロペン (D-D)
- 4 シマジン

問題10 農薬取締法で定義されている農薬として、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 農作物を害する雑草を防除する薬剤
- 2 農作物に直接間接に有害な生物を捕食する生物
- 3 ブドウを種なし化する薬剤
- 4 家畜に寄生する寄生虫を駆除する薬剤

問題11 農薬の登録に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 同一有効成分の農薬であっても、剤型、有効成分の含有濃度、製造会社等が異なれば、別々に登録を受けなければならない。
- 2 登録事項のうち、適用病害虫の範囲及び使用方法を変更する必要があるときは、農林水産大臣に申請し、審査を受けなければならない。
- 3 登録とは、法律に定める事項を公式の帳簿に記載して保存するとともに、これらの事項を公に表示することである。
- 4 農薬の登録の有効期間は5年である。

問題12 次の文章は、毒物及び劇物取締法の条文の一部である。〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

毒物劇物営業者は、その容器及び被包に、左に掲げる事項を表示しなければ、毒物又は劇物を販売し、又は授与してはならない。

- 一 毒物又は劇物の〔 ア 〕
- 二 毒物又は劇物の〔 イ 〕及びその〔 ウ 〕
- 三 厚生労働省令で定める毒物又は劇物については、それぞれ厚生労働省令で定めるその〔 エ 〕の名称

	〔 ア 〕	〔 イ 〕	〔 ウ 〕	〔 エ 〕
1	名称	成分	含量	解毒剤
2	種類	成分	商品名	中和剤
3	名称	成分	含量	中和剤
4	名称	製造所	製造年月日	解毒剤

問題13 毒物及び劇物取締法第十五条第一項に規定される毒物劇物営業者が毒物又は劇物を交付してはならない者の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

- ア 麻薬、大麻、あへん又は覚せい剤の中毒者
- イ 心身の障害により毒物又は劇物による保健衛生上の危害の防止の措置を適正に行うことができない者として厚生労働省令で定めるもの
- ウ 20歳未満の者

	ア	イ	ウ
1	誤	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正

問題 14 毒物又は劇物の取扱い等に関する次の記述について、正しい組合せを一つ選びなさい。

- ア 毒物又は劇物は、その容器として、毒物又は劇物の文字の表示がなされていれば、飲食物の容器として通常使用される物を使用することができる。
- イ 毒物劇物営業者は、毒物及び劇物取締法施行令で定める引火性、発火性又は爆発性のある毒物又は劇物の交付を受ける者の確認に関する事項を記載した帳簿を、最終の記載をした日から 5 年間、保存しなければならない。
- ウ 毒物劇物営業者は、毒物又は劇物を貯蔵する場所に、かぎをかける設備がある等、毒物又は劇物が盗難にあい、又は紛失することを防ぐのに必要な措置を講じなければならない。

	ア	イ	ウ
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤

問題 15 病害虫・雑草による農作物の経済的損失について 1990 年代に行われた全国的な実証試験に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 防除を行わなかった場合、水稻では、いもち病などによる 20~30% の減収やカメムシによる等級落ちによって出荷金額が 20~40% 減収した事例が多かった。
- 2 防除を行わなかった場合、リンゴでは果実の外觀が損なわれたが、収量にはほとんど影響が見られなかった。
- 3 防除を行わなかった場合、葉菜類ではチョウ目害虫やアブラムシ類の被害が大きく、果菜類はアブラムシ類やうどんこ病、べと病などの病害が目立った。
- 4 雜草のみによる減収等の報告を概観すると、水稻の場合では、雑草による減収は 10~55% で、極端な場合には 70~80% の減収に達するという報告がある。

問題 16 農薬の作用機構に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 殺虫剤の中には、神経に作用するものがあり、その代表的な薬剤がBT剤である。
- 2 昆虫等の生育および発達に作用する殺虫剤には、昆虫等の外骨格を構成するキチンの生合成を阻害するものがあり、フェロモンもその一つである。
- 3 プラントアクティベーターは、病原微生物に直接作用するのではなく、植物自身の抵抗性を高めて病気にかかりにくくする。
- 4 害虫が個体間の交信等に利用する生理活性物質を活用する生物農薬は、特定の害虫の発生消長の把握、誘殺や交信攪乱（交尾活動の阻害）に使用される。

問題 17 農薬の剤型別分類に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 細粒（300μm～1,700μm）となるように製剤化したものであって、そのまま使用する製剤を「粉粒剤」という。
- 2 水溶性の粉状、粒状など固体の製剤であって、水に溶解して用いるものを「水和剤」という。
- 3 当該農薬の有効成分を高分子膜などで均一に被覆し、マイクロカプセル化という操作を経て製剤化した農薬を総称して「マイクロカプセル剤」という。
- 4 通常、発熱剤、助燃剤を含んだ製剤であって、加熱により当該農薬の有効成分を煙状に空中に浮遊させて使用するものを「くん蒸剤」という。

問題 18 作物中の残留農薬量を表す単位(ppm)に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 作物中の残留農薬では、1ppmは作物1g中に含まれる0.01mgの農薬に相当する。
- 2 作物中の残留農薬では、1ppmは作物1g中に含まれる0.1mgの農薬に相当する。
- 3 作物中の残留農薬では、1ppmは作物1kg中に含まれる1mgの農薬に相当する。
- 4 作物中の残留農薬では、1ppmは作物1kg中に含まれる10mgの農薬に相当する。

問題 19 農薬散布に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 農薬散布は風の影響を受けやすい。常に風速や風向きに注意し、風が強くなったときは中止する。
- 2 希釀した散布液は農薬成分が分解せずに安定した状態を長く保つので、散布液はまとめて作り置きしておいた方が良い。
- 3 日中の土地が熱せられる時間帯になると上昇気流がおこり、散布粒子や微粉が上空に舞い上がるため、農薬散布は涼しい朝夕に行う方が良い。
- 4 農薬の剤型や防除器具を選ぶことによって、散布者の被暴を少なくすることができる。液剤散布では、ドリフト低減ノズルの使用も有効である。

問題 20 住宅地やその周辺等で農薬を使用する場合の周辺住民への配慮に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 住宅地やその周辺等でやむを得ず農薬を散布する場合は、再度の防除をしないでしませるよう、農薬散布の範囲を被害発生部位・区域だけでなく、広く設定する。
- 2 農薬散布に対する不安感を広げないように、農薬を使用する場合の事前周知は、最小限の区域とする。
- 3 住宅地やその周辺の植栽など、農地以外で農薬を散布する場合は、病害虫の発生や被害の有無にかかわらず、定期的に農薬を散布する方が、周知しやすいので良い。
- 4 近辺に化学物質に敏感な人が居住していることが判明している場合には、農薬散布の周知に当たって十分に配慮する。

問題 21 薬害の防止に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 同じ作物・品種であっても、生育の段階・育ち方などによっても薬害の発生様相が違う。
- 2 農薬によっては混用すると薬害を起こすことがある。
- 3 水田では、農薬使用直後の灌水・減水・生わらの使用による還元状態などにより薬害が出ることがある。
- 4 極端な高温、低温などの気象条件では薬害が出やすいが、極端な乾燥条件は薬害の発生に影響することはない。

問題 22 農薬散布の注意事項に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

散布液の準備では、散布液の〔ア〕に保護具を着用する。農薬の散布は、散布者の健康のため、2時間くらいを限度とする。散布作業中の飲食は〔イ〕。防護装備を着用していても農薬を浴びないようにするため、〔ウ〕の方向に後ろ向きに進行するなどの工夫をする。

	〔ア〕	〔イ〕	〔ウ〕
1	調製時	しない方が良い	風上
2	調製後	適宜行う方が良い	風上
3	調製時	適宜行う方が良い	風下
4	調製後	しない方が良い	風下

問題 23 農薬を使用する際の保護具に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 経皮毒性の高い農薬の散布や粒剤の手散布には不浸透性の手袋が必要となる。
- 2 粉剤の捕集効率は、農薬用マスクとタオル3枚では同等である。
- 3 一般のサングラスでも、農薬散布時に発生する飛来粉じんや噴霧された薬液が目に入ったり、また、誤って農薬が目に飛入しないようにするための保護具となる。
- 4 防除作業による熱中症を避けるため、防除衣は農薬を浸透させないことよりも涼しく着られる特性を優先する。

問題 24 植物の病原に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 植物の病原であるウイロイドは外皮のない裸の核酸で、これによって引き起こされる病気による被害は減少傾向である。
- 2 ウィルスは核タンパク質で、細胞を持たない。また、自らの力で宿主植物体に侵入する機能を持っていないので、昆虫による媒介や傷口などから植物体に侵入する。
- 3 糸状菌の基本的な器官は、栄養器官としての菌糸体と繁殖器官としての胞子から成り立っている。
- 4 細菌の多くは2分裂によって増殖し、好適な環境下では短時間に多数の新細胞を生産する。植物組織への侵入は、気孔などの自然開口部と管理作業などによる傷口からであり、細菌自ら植物表皮組織を破壊して侵入することはできない。

問題 25 総合的病害虫・雑草管理(IPM:Integrated Pest Management)に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

病害防除の分野においては、薬剤の使用を最小限に抑えた上で、他の〔ア〕、物理的、生物的な方法も組み合わせ、被害を〔イ〕許容水準以下に病原微生物を管理しようとする、いわゆる総合的病害虫・雑草管理(IPM : Integrated Pest Management)がその中核となる。具体的には、〔ウ〕など生物的な方法を中心とし、化学薬剤を調和・補完的に使い、〔ア〕、物理的な方法も適宜組み合わせて病害を防除する。

	〔ア〕	〔イ〕	〔ウ〕
1	耕種的	経済的	微生物農薬の利用
2	化学的	衛生的	微生物農薬の利用
3	化学的	耕種的	防虫ネット
4	耕種的	衛生的	防虫ネット

問題 26 害虫の化学的防除法に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 コナガが多発した場合のように、卵から成虫までの各発育態が混在しているときでも残効性の短い薬剤1回の散布で十分な防除効果が得られる。
- 2 外部から汁液を吸収する害虫には、作物の病原を伝播する種類が多く、それらの害虫は病原を媒介する前に駆除しないと発病を抑制することが難しい。
- 3 体表が厚い脂質の殻におおわれているカイガラムシ類では、どの発育段階で散布しても殺虫剤の効果は変わらない。
- 4 性フェロモンを利用した防除法には、大量誘殺法と交信かく乱法があるが、大量誘殺法用のフェロモン剤の設置密度に比べて、交信かく乱法用フェロモン剤の設置密度は低くても十分である。

問題 27 害虫の物理的防除法に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

光に誘引される昆虫種は多い。それらの昆虫は主として〔 ア 〕の光に走光性を示す。畑作物などでは有翅アブラムシ類の飛来を防止するために〔 イ 〕のプラスチックフィルムなどによるマルチングが行われる。

〔 ウ 〕を通さないプラスチックフィルムが開発され、これをハウスの被覆材とすることによって一部の病害の発生を抑制することができるが、同時にハウス内におけるミナミキイロアザミウマなど数種害虫の発生を抑えることもできる。

アブラムシ類やオシンツコナジラミは〔 エ 〕に誘引されて集まる性質を持ち、これを利用した防除資材として粘着トラップが開発され、実用化されている。

	〔 ア 〕	〔 イ 〕	〔 ウ 〕	〔 エ 〕
1	赤色～赤外部	銀色	紫外線	青色
2	青色～近紫外外部	銀色	紫外線	黄色
3	青色～近紫外外部	黒色	赤外線	青色
4	赤色～赤外部	黒色	赤外線	黄色

問題 28 雜草の分類に関する次の記述のうち、〔 〕にあてはまる語句の組合せとして、正しいものを一つ選びなさい。

種子を毎年生産し、植物体が枯れ、翌年にその種子から発生する雑草を〔 ア 〕、秋冬期に地上部が枯れても地下部の根茎や塊茎などが残り、そこからまた成長する雑草を〔 イ 〕という。

夏に生育するものを夏雑草、冬に生育するものを冬雑草あるいは〔 ウ 〕と区別する。

	〔 ア 〕	〔 イ 〕	〔 ウ 〕
1	多年生雑草	一年生雑草	越年生雑草
2	多年生雑草	一年生雑草	超年生雑草
3	一年生雑草	多年生雑草	越年生雑草
4	一年生雑草	多年生雑草	超年生雑草

問題 29 雜草の発生生態に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 雜草の種子は、成熟後しばらく休眠して、夏雑草では夏、冬雑草では冬をそれぞれ越して、適当な温度、水分条件になると発芽する。
- 2 水田多年生雑草のクログワイ、ミズガヤツリは $-5\sim-7^{\circ}\text{C}$ 以下の低温で凍死する。
- 3 種子から発生する雑草は、発生深度が浅いため、プラウ耕などで土壤を反転させると表層に多い種子が地中深くに入り発生が増える。
- 4 スギナ、セリなど茎の節から盛んに発芽する種類は、ロータリ耕で切断すると、細断された茎が分散して増える割合が少なくなる。

問題 30 除草剤の使用方法と剤型に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 除草剤は、種類によってそれぞれ適用時期が決まっている。水稻の初期剤では田植え後からノビエの1.5葉期頃までが目安となっている。
- 2 殺虫剤、殺菌剤などと散布が重なる場合あるいは近接散布される場合、薬害を助長するものがあるので、ラベルに示された使用上の注意をよく読み、遵守する。
- 3 水稻用除草剤として登録がある薬剤は、粒剤のみである。
- 4 畑地、樹園地、芝地などで使用される水和剤（含む顆粒水和剤）、水溶剤、乳剤、液剤は水に希釈して散布されるが、10a当たり100リットルの散布水量を基本としている。

令和7年度農薬管理指導士認定試験

正 答

受講番号	氏名

問題	正答番号	問題	正答番号	問題	正答番号
1	4	1 1	4	2 1	4
2	1	1 2	1	2 2	1
3	4	1 3	2	2 3	1
4	3	1 4	3	2 4	1
5	1	1 5	2	2 5	1
6	4	1 6	3	2 6	2
7	2	1 7	3	2 7	2
8	2	1 8	3	2 8	3
9	4	1 9	2	2 9	2
10	4	2 0	4	3 0	3
				※	

※欄には何も記入しないこと。